

日本農業は、戦後、空前の発展を遂げ、食糧の自給自足を達成した。これは、戦前とは異なり、戦時体制下で、食糧の増産を目的として、国家が高度な農業政策を実施した結果である。戦前、日本は食糧の自給不足に悩んでおり、食糧の増産は国家の存続に不可欠であった。戦時体制下では、食糧の増産は、戦力増強の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。戦後、食糧の増産は、国民生活の安定と経済発展の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。

戦後、食糧の増産は、国民生活の安定と経済発展の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。戦後、食糧の増産は、国民生活の安定と経済発展の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。

戦後、食糧の増産は、国民生活の安定と経済発展の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。戦後、食糧の増産は、国民生活の安定と経済発展の基盤となっており、国家は食糧の増産を最優先の課題として取り組んだ。

戦前農人協同会大阪支所

財団法人協同会大阪支所

ト戦ノ準備ヲ充分ニシナケレバナラス。

三 立禁ニ對スルワレ等ノ考ヘ方

▲ 地主資本家及ビソノ政府ノ態度

「立禁ハ地主ガナヌ小作人イデメノ最悪ノ手段デアル」ト云フ
 タヤウナ、考ヘ方ダケデハ今日ノ立禁ニ對スル理解トシテハ不
 充分デアル。

今日ノ立禁ノ性質ハ變ツテ來タ。

- 一般經濟恐慌ニ伴フ農業恐慌ニヨツテ貧農小農カラ中農迄ガ農産物安ト生産費、諸負擔ノ割高ニヨリテ悩ンデキル時、中小地主モ亦多少ニシテ農業恐慌ニヨリテ窮乏ト没落ニ悩ンデ居ル。
- 小作人、小作兼自作農中ノ貧農、小農ハ小作料減免費更ニ税金、借金、獨占價格、ソノ他ノ諸負擔ノ軽減ヲ圖ハザルヲ得ナイ、進ンデハ惡法反對、暴壓反對等ノ政治的闘争ヲモ圖ハザルヲ得ナイ。從ツテ小作争議ハ激増シ激化シテ、アリ、一般農民闘争